



北上市×さくらホール feat.ツガワの挑戦… vol.4

グループ・インタビュー「ひびきの会」編

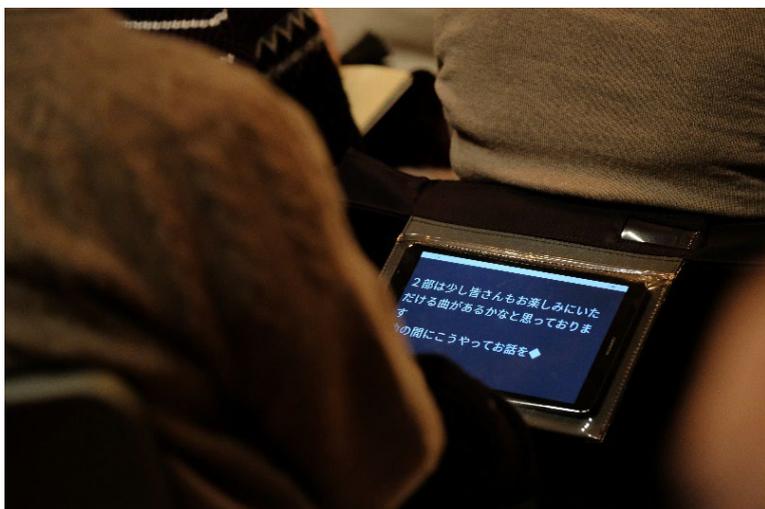
聴覚障がいの方も 文化芸術の楽しさを みんなで享受できるまちへ

「誰もが」同時に公演を楽しめる市民ホールへ

障がいの有無にかかわらず、公共ホールで「誰もが」同時にコンサートや芝居、落語などの公演を楽しめるように……。

「さくらホール feat.ツガワ」(以下「さくらホール」)では、2003年の開館当初からバリアフリー設計を採用。車いす席や介助者無料のサービス、さらにFM補聴システムも導入し、音声補聴システムを利用した落語や歌舞伎公演のほか、地元の手話サークルと連携して手話通訳を取り入れた舞台公演なども開催してきました。

その取り組みをさらに発展させるため、2024年度から新たに取り組んでいるのが、聴覚障がいのある方や耳が聴こえにくい方に向けた「鑑賞支援サービス」です。



▲「鑑賞支援サービス」として無料で貸し出した字幕タブレット（2024年度）

具体的には、歌詞や演者が話した内容が文字で見られる「字幕タブレット」や、音声の“聴こえ”をサポートする「音声補聴システム」、公演当日に手話通訳者が常駐して会場の案内を行う「手話サポート」の3つで、同サービスを無料で利用できる落語とコンサートの公演も開催しました。

鑑賞支援サービスは無料でご利用いただけます。*※別途チケット代が必要です。

1. 字幕タブレット

歌詞やお話を文字でご覧いただける字幕タブレットを貸し出します。字幕は自動で表示されますので、上演中の操作は必要ありません。

定員 5名 ※要事前申込

受付方法 事前にお申込みの上、公演当日入場口にお越しください。スタッフよりタブレットをお渡しいたします。



2. 音声補聴サポート
(ヒアリンググループ)

聞こえをサポートする音声補聴システム「ヒアリンググループ」を使用した音声補聴サポートを行います。Tコイル対応補聴器をご利用の場合はセリアや音楽をご自身の補聴器でダイレクトにお聞かせいただけます。Tコイル非対応または補聴器をお使いではない方はイヤホンタイプの機器を貸し出します。

定員 10名 ※要事前申込

受付方法 事前にお申込みの上、公演当日入場口にお越しください。スタッフより音声補聴器をお貸しいたします。



3. 手話サポート

本公演には、手話通訳による案内係が常駐しています。受付時、チケットの受取りから客席の案内までをサポートします。**事前のお申込みは不要です。**

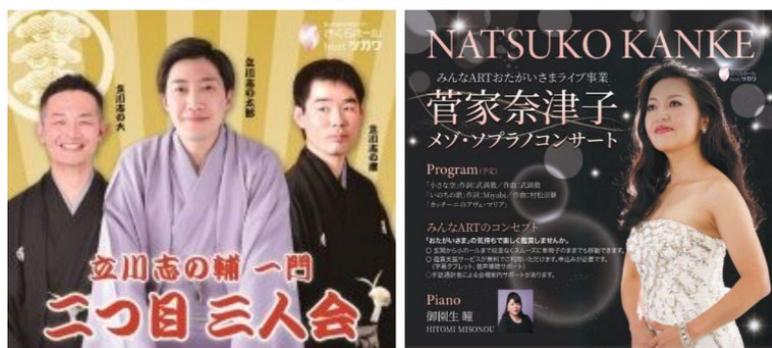
サポート内容

- 手話通訳者による会場内案内サポート
- 上演前の手話によるアナウンス
- 上演中は、会場内に手話通訳案内者が常駐



※本編についで手話通訳はございません。

文化庁 文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 (JDPA)



▲さくらホールでは2024年度に「鑑賞支援サービス」を無料で利用できる落語とコンサートの公演を実施

2つの公演から浮かび上がった新たな課題

公演当日はどちらもたくさんの方にご鑑賞いただきましたが、そのうち「鑑賞支援サービス」の利用は落語が5名（音声補聴システム）、コンサートが10名（音声補聴システム2名、字幕タブレット8名）でした。利用者からは「別の公演も観てみたい」といったうれしいコメントもいただいた一方で、聴覚障がいのある方の利用は少なく、情報発信の重要性が新たな課題として見えてきました。

北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して、ふだんは「ホールに来づらい」方たちやその関係者に話をうかがうグループ・インタビュー。第4回は、こうした経験を踏まえ、改めて「聴覚障がいのある方や耳が聴こえにくい方にどのような取り組みが必要か」について、話をうかがうことに。

今回訪れたのは、聴覚障がいのある方や盲ろう者の方が集まり、手話を通じて交流を図るボランティア団体「ひびきの会」です。同団体は北上市内を中心に近隣市町からも参加者が集まり、さまざまな講座や日帰りバスツアーなども企画しながら交流を深める活動を行っています。



当事者がうれしい「鑑賞支援サービス」とは？

グループ・インタビューでは、さくらホールで2024年度から新たにスタートした「鑑賞支援サービス」が話題となりましたが、その取り組みを「ひびきの会」のみなさんは誰も知らなかったそう。さくらホールでは「鑑賞支援サービス」をPRするにあたって、市の障がい福祉課や社会福祉協議会などを通じて情報発信をしました。しかし当事者に情報を届けるには、さらに踏み込んだ情報発信が必要だと痛感しました。



また、「鑑賞支援サービス」の内容についても、さまざまな意見をいただきました。さくらホールでは地元の手話サークルと連携して手話通訳を取り入れた舞台公演を行っていることは最初に触れましたが、「ひびきの会」のみなさんもその公演を毎年楽しみにしてくれているそう。

しかし、昨年度の「鑑賞支援サービス」が付いた公演で行った「手話サポート」は会場の案内のみだったため、「手話通訳者がいる公演が増えるとうれしい」とのこと。「字幕タブレット」と「音声補聴システム」ももちろん便利ですが、ふだん使用している手話が一番見やすいという話は、当事者に話を聞かなければわからないことであり、貴重な意見をいただきました。



一方で「手話」にも2種類あり、「対应手話」は日本語の文法に沿って表現しますが、「日本手話」は日本語の文法とは異なる独自の文法体系を持っており、前者は主に日本語を覚えた後に耳が聴こえなくなった方や難聴の方が多く、後者は生まれつき耳が聴こえない「ろう」の方や幼少期に耳が聴こえなくなった方が多いそう。

ニュース番組などで登場する手話通訳者も「対应手話」だったり「日本手話」だったりするようで、聴覚障がいがある方でも使用する手話によって理解度が違ってくるとい話は初めて知った事実で、今後の取り組みにとっても参考になる話でした。

ホールに「安心して行ける」環境づくりも大切に

また、会場内の案内を行う「手話サポート」も、会場内のどこにその担当者があるか目立つようにしてわかりやすく配置しPRしてもらえると「それだけで当事者は安心する」という意見も。例えば、さくらホールで開催されるイベントや公演に参加したいと思っても、「駐車場が混んでいるとどこに車を駐車していいかわからず、係の人に聞きたくても聞けない」ため、参加をあきらめることがあるそう。

そんなとき「手話サポートの人がいる」とわかっていれば、手話を使う方も「困ったらその人に聞けばいい」と思えるので、それだけで「気持ちがラクになり、安心して会場に行ける」とのこと。イベントや公演を観る以前に、ホールにストレスを感じず安心して行ける環境づくりも重要だと実感した意見でした。



また、さくらホールでは2003年の開館当初からFM補聴システムを導入していますが、大・中ホールのみで小ホールは音声補聴システムの対応ができていませんでした。そこで昨年度、仮設のヒアリンググループ（磁気ループによる音声補聴システム）を小ホールに導入し、公演を開催しましたが、この新しい取り組みのことは、「ひびきの会」のみなさん誰もご存じではありませんでした。

ここでも必要な方に「いかに情報を届けるか」という課題が浮き彫りとなりましたが、「ヒアリンググループの体験会を開いてみては？」とさっそくアドバイスも。「ヒアリンググループと言われてもピンと来ないが、体験会があるとされれば、耳が聴こえづらい方なら試してみたいと思うはず。もし体験会を開催するなら、ひびきの会に教えてもらえればみんなに広めますよ」と心強い言葉もいただきました。改めて当事者が集まる団体とつながる大切さと、そうした当事者同士のネットワークを活用した情報発信が重要だと感じたひとときでした。



手話と笑顔はじけるにぎやかな時間を次の糧に

今回は手話通訳者の方を介してのグループ・インタビューとなりましたが、とまどうこともあるかと思いきや、コミュニケーションもスムーズで、みなさん積極的に話してくださり、あっという間の90分間となりました。手話でのコミュニケーションということで、会場も静かな雰囲気になるのかと思いきや、手の動きはもちろん、みなさん体全体を使って表現され、笑顔はじけるとともににぎやかなグループ・インタビューとなりました。

改めて、北上市やさくらホールのスタッフを笑顔で迎えてくださり、さまざまな質問にも率直に話してくださった「ひびきの会」のみなさんに感謝です。今後も相談や質問があれば、「いつでもどうぞ」とあたたかい言葉も

いただき、またひとつ大切な「つながり」が生まれたことが、今回の1番の成果でした。



北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して取り組む今回のプロジェクト。協力いただいた「ひびきの会」のみなさん、お忙しいなか貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

今回みなさんからいただいた意見やアイデアを踏まえて、さくらホールでは2025年度から新たな事業を行う予定です。そちらも、どうぞ、お楽しみに！

◇ひびきの会

北上市内はもちろん、近隣市町からも聴覚障がいのある方や盲ろう者の方が集まり、手話を通じて交流を図っています。さまざまな講座や日帰りバスツアーなど楽しい行事を企画中！ただいま会員募集中です。お気軽にご参加ください。

活動日時：毎週金曜日 10:00～15:00（参加時間はご自身の都合でOKです）

活動場所：北上駅前「おでんせプラザぐるーぶ」3F 団体活動室 A B 会議室 調理実習室など

TEL 0197-65-4032 FAX 0197-65-4032

携帯電話 080-5229-2626（小笠原）

（おわり）